

レポート! 授業No.045 「風景をつなごう 一環・輪・和」

45回目の授業は、川越市立福原小学校にて、4年1組36名(男子19名、女子17名)の児童を対象に行いました。講師は美術家の小原典子(おばらのりこ)さん(2002年大学院絵画専攻修了)です。今回の授業では、校歌をヒントに福原小学校周辺の風景を描き、絵の中から空・町・緑・川・地面の形を取り出し樹脂で輪をつくり、空間に設置しました。身近な風景をスケッチし、形を抜き出すことによって自分を取り巻く環境を見つめ、形と記憶の結びつきを感じると共に、取り出した形の輪をつくり共同で再構成することによって、自分達の街の新しい風景をつくりだす授業です。

2013.3.5 tue. 08:45～ 09:30

講師作品紹介・授業の説明 (視聴覚室)

プロジェクターで作品が映しだされました。「これは何に見える?」「蝉!」「残念。これは蝶のさなぎです。新潟県十日町市にある廃校の教室に、さなぎをたくさんつけてつけました。」羽化する時に光る蝶のさなぎを、再生のシンボルとして使っているそうです。他にも新潟県では、使われなくなった銀行のカウンターに、「新潟の宝」をテーマに描いてもらったカードを並べて川をつくったり、宝を立体で作り、米倉庫だった建物の中に雪が降っているかのように吊るした作品もありました。使われなくなった場所や忘れ去られたものをテーマに、見た人が「こんないい場所があるのか」「こういうものがあつた」など、忘れていたものに気づくような作品をつくらせているそうです。

そして、授業の説明です。「プレ授業でみんなが描いた福原小学校周辺の絵から、空・町・緑・川・地面にあるものの形を、全員分取り出しました。取り出した形の輪を樹脂を使ってつくり、輪は水面(みなも)を表しています。水面(すいめん)に映る空・町・緑・川・地面の形をヒントに作品をつくらせていきます。みんなで作品をつくりながら普段気にもとめないものや忘れさられているものを思い出したり、友達の絵を見て気づいたものを確かめながら、今、自分をとりまく風景をもう1回再確認していきたいです。」

09:40～10:25 (2時間目)

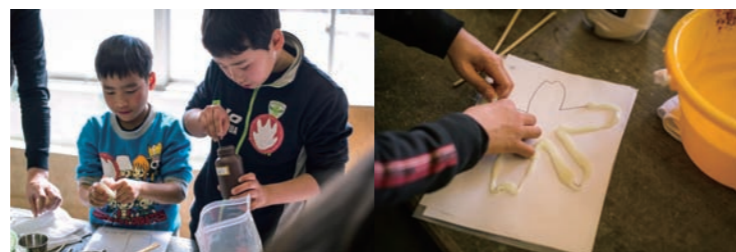
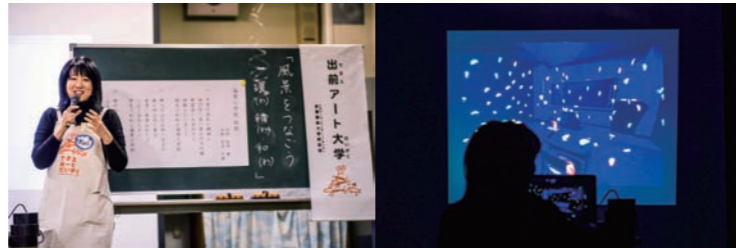
10:45～11:30 (3時間目)

11:40～12:25 (4時間目)

輪をつくらう (図工室)

小原先生が輪のつくり方を実演しました。授業では4～5名が1グループとなり、空・町・緑・川・地面のいずれか1つのテーマを担当し、グループでは2～3名が1組となり協力しながら製作を進めます。最初にコップに書かれた線まで樹脂を入れ、お湯を入れたカップに移し替えます。お箸で樹脂をお湯の中に沈めたら、30秒待ちます。樹脂は温めると柔らかくなり、冷めると堅くなるそうです。時間がきたら、お箸で樹脂を取り出します。「みんな、おにぎりを握ったことはある? 手に水をつけ、おにぎりを握るようにまるめてね。」まるめた樹脂をもう一度温め、薄く広げたら、お友達に魔法の粉を入れてもらいます。「魔法の粉が何かは秘密です!」魔法の粉の登場に、児童たちは興味津々です。「粉を入れたら、餃子をつくるように包み、一つの方向に引っ張りながら練ってください。冷めてきたら、堅くなる前にお湯につけて柔らかくしてね。」樹脂を細いヒモのようにのばし、クリアファイルに入れた下絵の形にそって置いていきます。ヒモを指先でつぶして平らにしたらファイルからはずし、水の中に入れて冷やします。一瞬で冷えて堅くなった樹脂の変化に児童から拍手が起こりました。

いよいよ実践です。手始めに1人1個のまるい輪をつくり、輪ができたら、グループごとに担当する形をつくらせていきます。下絵の形は自分のものとお友達が描いたものと混ぜています。「今日は1人10個の輪をつくるのが目標です。」とお原先生。「え、10個も!」「やったー!」「できるかなあ。」待ちきれない様子で、児童は急いで自分の席に戻って、製作を始めました。最初は樹脂の取り扱いに苦労していた児童も、徐々にコツを掴んだようです。思い通りの形がつかれると、実に満足そうな表情が浮かびます。少しずつ製作ペースがあがり、3時間目には目標の10個をクリアする児童もできました。輪はスケッチから抜き出した形だけでなく、グループのテーマにちなんだものなら、自由につくらせてよいそうです。児童たちの創意工夫は実にお見事! 輪に細かいパーツを加えて、顔、花、葉っぱ、魚、エビなど、さまざまなものが出来上がりました。



11:40～12:25 (4時間目)

輪をつなごう (図工室)

洋服のタグをつけるプラスチックのヒモを使い、輪と輪が平らになるようつなげます。各グループ、3つの大きなかたまりをつくらせていきます。床に置くと輪の形がよくわかります。友達と協力しながら作業を進めます。

13:50～14:35 (5時間目)

輪をつなごう・作品を設置しよう (視聴覚室)

つないだ輪は、天井から吊るされたテグス(透明の丈夫な糸)に結びます。児童がスケッチに描いた地平線の高さや描かれたものの場所を全員分合わせ、小原先生が空や緑などテーマごとに輪を吊る高さや場所を割り出しました。一番高い空、奥から手前に下がりながら流れる川、町の下に緑と地面が交差しながらアップダウンを繰り返していくそうです。輪とテグスが絡みやすいため、落ち着いて協力しあいながら作業を進めます。吊る高さを見極めたり、輪が揺れないよう支えたり、滑りやすいテグスを結ぶ表情は真剣です。児童とお原先生、小学校の先生方、スタッフ全員が力を合わせ、全部の輪を吊りきりました。

14:45～15:30 (6時間目)

鑑賞 (視聴覚室)

完成した作品をみんなで眺めます。輪の浮遊感がなんとも不思議です。そして、全員が輪の中に入りました。外側と内側では、見える風景が大きく違います。最後にサプライズで、魔法の粉の秘密が明かされました。小原先生の合図で天井の照明が消え、ブラックライトがつかこの通り! 児童からは一斉に「おお〜!」「すごい!」と驚嘆の声があがりました。空と川は青、緑は緑、町は黄、地面はオレンジとテーマごとに色が違います。暗闇の中に浮かび上がる風景の輪は、光り輝く水面(みなも)のようです。次に授業タイトル「風景をつなごう。環。輪。和」をみんなで一緒に叫ぶと、ブラックライトも消えました。光を蓄えることのできる魔法の粉のお陰で、照明がなくても、しばらくの間は輪が光り続けるのです。児童は床に寝転んだり、場所を変えたりしながら、輝き続ける福原小学校の新しい風景を楽しみました。

まとめ

小原先生からお話がありました。「自分のつくったもの、お友達がつくったものが見えたかな? 風景はみんながつくったものがつながってできています。いろいろなものを今まで何気なく見てきたんですけども、ひまわりがあつたり、葉っぱがあつたり、スカイツリーが見えたりとか、ひとつ一つ確認していくと面白いですね。お家へ変える時も、今日はちょっと違う気分が帰れるかもしれない。今まで見ていた風景を新鮮に感じると思います。楽しんで帰ってみてくださいね。」

■おわりに

授業の実施にあたり、川越市立福原小学校 吉田 宏校長先生、大山雅久教頭先生、図工主任の宇津木陽子先生、4年1組担任の市ノ川富美子先生をはじめとする先生方、多大なご理解とご協力をいただきました。



講師 美術家の小原典子(おばらのりこ)氏 (2002年大学院絵画専攻修了)



まず事前授業で訪問した際、子供たちののびのびとして好奇心旺盛なところがとても良いなあ、と思いました。そして発想の素晴らしさと1時間目から4時間目までほとんど休み無く集中して制作する姿、すごい!の一言です。校歌にも登場している風景は、さまざまな色や空間を想像させるものでした。この色彩豊かで広々とした環境が、子供たちの良さを作り上げているのではないかと考えています。普段の何げないものが実は一つ一つが繋がりが、大きな風景を作っている。展示した水面(みなも)の風景も、一つだけではバランスを保つことが出来ません。さまざまな形が繋がることにより、大きな形となってバランスを保っています。身近な風景は隣の町の風景へと、そのまた隣の町へと次々に繋がりが、全国へ、世界へと繋がっていく。そしてそれはとても大切なものだったということに気づいてもらえると、この作品は完成します。私自身も素晴らしい経験になりました。